

## 公共図書館による展示

### 新しい生活様式の図書館

#### ◆運営・準備

今年の展示テーマについて、そのまま使用するには範囲が広すぎてまとめることができないため、まず対象を「県内公共図書館のコロナ禍におけるサービス」にしぼるところから始めました。

当初は実行委員の調査結果をもとに作成する予定でしたが、委員のみでは情報収集に限界があると感じ、県内各図書館にアンケートを実施して広く情報を募りました。

アンケート内容については、写真や PR 文章を記入していただく形式にすることで、展示自体が広く県民の皆様には図書館の取組を紹介する場になるようにしました。

#### ◆展示

委員が収集した情報とアンケート結果をもとに、サービスを大きく5つのグループにわけて作成しました。

準備期間中に開催方法がオンライン公開のみとなり、当展示も画像での公開のみに変更になったため、パッと見たときの情報の伝わりやすさを重視して、写真を多く使用することにしました。

加えて、画像公開の際に文字がつぶれて文章が読めなくなることを防ぐよう、文字サイズにも留意したほか、正面からの撮影を想定して、できる限り展示物同士が被らないよう配置を工夫しました。

メインパネルの中央には、埼玉県の地図を置き、種別で色分けしたシールで分布図にすることで、各市町村でどのようなサービスが行われているかが一目でわかるようにしました。

また、丸テーブルでは図書館が行っている感染対策を紹介した他、最も回答が多く寄せられた「書籍除菌機」は、パネルに加えて長机にも展開しました。

#### ◆おわりに

初のオンライン公開ということもあり、手探りで作成となりましたが無事に完成させることができました。

図書館を以前のように利用していただくことが難しい状況の中、各館が様々な工夫をしてサービス提供に取り組んでいます。その様子が少しでも伝われば幸いです。

御多忙中にもかかわらず、アンケートにご協力いただいた県内公共図書館の皆様には、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。



(記録：埼玉県立熊谷図書館 佐藤 彩香)

## 重松清先生 著作展示

重松清先生の多彩な著作の中から、デビュー作を含む 62 点、インタビュー記事が掲載された雑誌 5 点を展示しました。また「週刊ポスト」に 2002 年 5 月から 1 年間連載された『重松清の「ちくメロ放送局」』を一部展示し、御紹介しました。



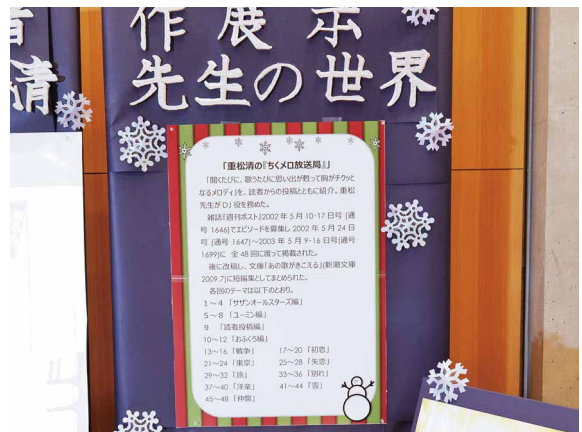
左側には重松先生のプロフィールとともに先生の著作を展示しました。デビュー作『ピフォア・ラン (1991)』をはじめ、坪田譲治文学賞受賞作『ナイフ (1997)』、山本周五郎賞受賞作『エイジ (1999)』、直木賞受賞作『ビタミン F (2000)』、吉川英治文学賞受賞作『十字架 (2009)』、毎日出版文化賞受賞作『ゼツメツ少年 (2013)』など文学賞を受賞された作品と、映画化された著作です。

また、重松先生の作品が海外で翻訳された一例として、『カシオペアの丘で (2007)』の中国語版『在仙后座山丘上』（北京理工大学出版社 2010 年）を展示しました。



右側では、雑誌に掲載された先生のインタビュー記事や、ドラマ化された作品の一部を御紹介しました。紹介できた著作はごく一部で、展示できなかった著作が沢山あります。

重松先生の作品のほとんどは文庫化され、映画化ドラマ化された作品も多く、教科書に取り上げられているものもあるため、読者は幅広い世代にわたります。そこで今回の展示では、現在では目に触れることの少ない過去に手掛けられたお仕事として「週刊ポスト」に 2002 年から 1 年間連載された『重松清の「ちくメロ放送局」』を御紹介しました。この連載は、読者から投稿された「聞きたび、歌うたびに思い出が甦り胸がチクッとなるメロディ」のエピソードを重松先生が DJ 役となり紹介・コメントするというものです。



コロナ禍中での準備となりましたが、連絡を取り合い実行委員がそれぞれに作成したものをまとめました。感染予防に配慮し県立図書館で所蔵している資料を中心に展示しましたが、ほとんどの著作を県内の市町村立図書館でも所蔵しています。

オンライン公開のため展示した著作を手にとって御覧いただくことはできませんでしたが、「新しい生活様式」の中、オンラインで公開した展示会場を御覧いただいた皆様から感謝申し上げます。

誠にありがとうございました。

(記録：幸手市立図書館 工藤 由加里)



## ブックケア 未来へつながる保存の技術

本の直し方や長く保存するための技術を伝えるブックケアの展示も、いよいよ 10 年目を迎えました。

今年はオンラインでの公開ということで、例年行っている体験コーナーやデモンストレーションは行えませんでした。修理の基本知識や技術、材料・道具についての解説パネルと道具類の写真をウェブサイト上にて公開しました。

### 【パネル展示】

#### <保存の技術（材料・道具）>



### ●修理の基本と材料

#### ①修理の基本

- ・何度でもやり直せること
- ・安全な材料を使う
- ・柔らかく軽く仕上げる

#### ②基本的な材料

- ・和紙（楮）（極薄・薄・中厚・厚 4 種類）
- ・麻糸
- ・でんぶん糊：ページ修理に
- ・混合糊（でんぶん糊 2：白ボンド 1）：  
くっつきにくい紙や、強度が必要な時に
- ・白ボンド：背の張り合わせに

### ●本の修理の道具

筆（こしのある平筆）、カッターナイフ、

定規（金型 30cm）、目打ち、製本針、締め板、  
重し（5kg、漬物石等）、樫矢（目打叩き棒）

#### <本の修理ビフォー・アフター>



代表的な壊れの事例 4 例について、どんな流れで修理するのか過程をパネルで紹介。修理後の現物も並べ、前後で見比べていただくコーナーです。

事例 1 和紙と糊でやぶれを直す

事例 2 和紙の足をつけてページをもどす

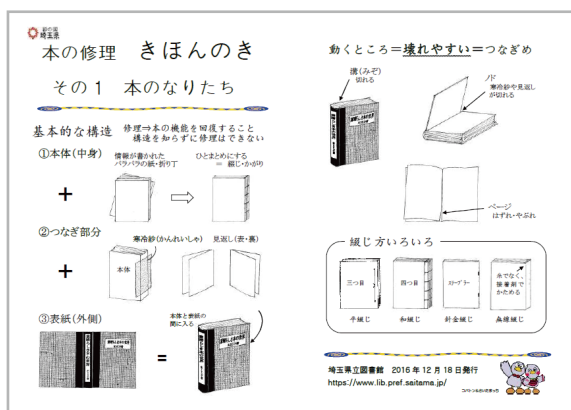
事例 3 自立しない本のゆがみを直す

事例 4 絵本をリンク・ステッチで綴じ直す

#### <治す技術（修理の基本の技術）>

### ●『本の修理きほんのき』

本を長く利用するために気をつけたいこと、道具や材料、基本的な修理方法を、コツやヒントをまじえて御紹介するチラシを配布しました。



※『きほんのき』はウェブサイトに掲載していますので、ぜひ御覧ください。

<https://www.lib.pref.saitama.jp/guide/hozon/gizyutu.html>

(記録：埼玉県立久喜図書館 近藤 梨乃)

## 読書のバリアフリー資料展

2019年に制定された「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」を受けて、2020年7月に国の基本計画が策定されました。これらの法律と基本計画により、図書館で視覚障害者等へのサービスを充実させることが求められています。

今回の「読書のバリアフリー資料展」では、図書館で提供できる、視覚障害者等（活字による読書が困難な方）のためのさまざまな資料を御紹介しました。感染症対策のため資料そのものは展示しないで、パネルで資料の特徴と写真を紹介する展示にしました。

以下に、パネルで取り上げた資料を御紹介します。

### ■マルチメディアデイズ

音声と絵と文字を同期させたデジタル資料です。音声で読まれている文字がハイライトされるので、どこを読んでいるのかが一目でわかります。再生スピードや文字の色などを変えることもできます。パネルではタブレットで再生する『ごんぎつね』を、色の組み合わせを変えて3種類表示しました。

また、伊藤忠記念財団が作成したポスター2種類も掲示しました。

### ■デイズ再生機

デジタル録音図書「デイズ」を再生する専用の機器を紹介しました。ボタンの配置や音声ガイドなど、視覚障害者が使いやすく工夫されています。再生スピードを変えたり、ページでジャンプしたり、しおりを挟んだりすることができます。

### ■点字図書・雑誌

視覚障害者が触って読む資料です。6点の組み合わせで五十音を表示します。活字なら1冊の小説が、点訳すると例えばファイル4

冊になるなど、ボリュームが増えることを知っていただけたらと思います。

### ■ユニバーサル絵本

最初から絵が浮き出ている、活字と点字の両方が印刷されている絵本です。目が見えても見えなくても、だれでも絵本を楽しむことができます。

### ■LLブック

LLとは、やさしく読めるというスウェーデン語の略語です。だれでも読みやすいように、やさしく短い文章で書かれています。

仕事や料理など、生活に必要な情報を伝える図書があります。

### ■リーディングトラッカー

前後の行を隠して、読みたい1行だけ表示する読書補助具です。表示部分に様々な色がついていて、文字が読みやすい色を選ぶことができます。

### ■布絵本

布で作られた絵本です。マジックテープやボタンなどを使い、パーツを動かして楽しむことができます。



「図書館と県民のつどい埼玉 2020」会場では、パネル展示に合わせて資料紹介動画も流す予定でした。残念ながらオンライン公開のための準備が間に合わず、動画での紹介はできませんでした。今後展示の機会がありましたら活用したいと考えております。

(記録：埼玉県立久喜図書館 大島 恵津子)